

## 防災教育における課題についてワークショップと現地調査に参画しました (2026/3/16~17)

テーマ：防災教育・伝承活動・東北地方太平洋沖地震

会場：当研究所、仙台市荒浜地区

2026年3月16日~17日、東北大学災害科学国際研究所のマリ・エリザベス准教授（国際研究推進オフィス）、ゲルスタ・ユリア准教授（災害メモリー学分野）、斎藤由美子助手（上廣防災学寄附研究部門）らが、防災教育における課題についてワークショップと現地調査に参画しました。

16日：ガイダンス（ゲルスタ准教授）

- ・ドイツにおける「災害」という概念と防災教育学の課題（TU Dortmund Prof. Lothar・Wigger）
- ・自然や世界を信頼することができるだろうか？ 哲学的視点から見た防災教育（京都大学大学院 広瀬悠三准教授）
- ・震災に関する絵本の分析（マリ・エリザベス准教授）
- ・認知科学×震災教育ワークショップの実践事例報告（斎藤玲助教）
- ・仙台市荒浜地区の紹介（斎藤由美子助手）

17日：震災遺構荒浜小学校の見学、住宅基礎跡などの現地調査

仙台市荒浜地区の現地調査は、災害時における「津波の情報収集」と「適切な避難行動」の実現をテーマに実施しました。震災遺構にてガイドを務める川村孝男氏より、ドローンを活用した最新の情報伝達システムや、沿岸部における避難施設の整備状況について詳しくレクチャーをいただきました。参加者からは、「震災前から現在に至る荒浜の変遷を辿ることで、被災の実態と復興のプロセスを多角的に理解できた」との感想が寄せられ、技術と歴史の両面から防災を深く考える極めて意義深いプログラムとなりました。



防災教育ワークショップの様子



震災遺構荒浜小学校見学の様子

文責：斎藤由美子（上廣防災学寄附研究部門）  
ゲルスタ・ユリア（災害メモリー学分野・国際研究推進オフィス）  
マリ・エリザベス（国際研究推進オフィス）  
斎藤玲（認知科学研究分野）